

# ディアコニア



## 恵みに生きるディアコニア

大泉ベテル教会牧師

柳澤 宗光

はじめに

「兄弟たち、マケドニア州の諸教会に与えられた神の恵みについて知らせましよう(Ⅱコリ8…1)」。み言葉は、「神の恵み」について、語り出します。

ここで、「神の恵み」とは、何でしょうか。2節に語られています。「彼らは、苦しみによる激しい試練を受けていたのに、その満ち満ちた喜びと極度の貧しさがあふれ出て、人に惜しまず施す豊かさとなった(Ⅱコリ8…2)。「苦しみによる激しい試練」の中にあつても、「惜しまず施す豊かさ」があつた。それこそが、「神の恵み」である。その様に、語っているのです。

ここでは、困難の中にある「エルサレム教会」に対する「募金」について述べられています(Ⅰコリ16…1、ロマ15…25 26)。

ここで、霊的に、「神の恵み」が与えられた「マケドニア州の諸教会」。

み言葉は、「これらの貧しい諸教会に、神の恵みが与えられた(Ⅱコリ8…1)」と語っています。「神の恵み」とは、「神からの恩寵」。み旨が成す「一方的な神の恵み」です。「神からの救いと信仰」に、関わる事柄といえます。

たとえ、自分たち「マケドニア州の諸教会」は、貧しくとも、困難の中にある「エルサレムの聖なる者たち(ロマ15…26)」に、思いを寄せる。たとえ、貧しくとも「募金」には、応じる(ロマ15…26)。そこにある「神の恵みが与えられる信仰」。それこそが、「キリストの祝福(ロマ15…29)」と言えます。

### ディアコニア

私たちは、教えられています。

主イエスは憐れみ、社会の底辺、更にその下の底点に置かれた人々の元にまで下りられました。そして、救いの業を成したのです。

信仰者の一人として、その主に倣い、突き動かされたのが、深津文雄牧師(大泉ベテル教会創設者)です。

上富坂教会で深津牧師から、ドイツの戦後を支えたのはディアコニッセ(奉仕女)という制度だと聞き、1949年11月、ドイツのベテスタ奉仕女母の家から来日したディアコニッセのシュヴェスター・ハナの話聞いた天羽道子姉が、ディアコニッセに志願されました。

深津牧師は、ドイツのベテスタ奉仕女母の家(在ブッパタル)に倣って、日本のディアコニッセのための「ベテスタ奉仕女母の家」(館長・深津文雄)を設立。1954年5月23日、日本で最初の奉仕女4名の着衣式が行われました。深津牧師と奉仕女たちが主イエスの祈りに応えた瞬間です。キリストに倣うならば、「貧しさの中」にこそ、「真の豊かさ」を見出すことが、赦されています。その「豊かさ」に触れる活動。それが、「ディアコニア」です。今日も、シュヴェスター道(天羽道子姉)らのお祈りと、お働きに支えられ、「ディアコニア」の流れは、脈々と、途切れることなく続いています。

## マケドニアの教会の模範

さて、パウロはまず、心貧しい「マケドニアの諸教会」の姿を語りました。彼らは「苦しみの中であつたにもかかわらず」（Ⅱコリ8…2）、「豊かな喜びにあふれ」（Ⅱコリ8…2）、「惜しみなく与えた」（Ⅱコリ8…2）、「惜しみなく与えた」（Ⅱコリ8…2）、「惜しみなく与えた」（Ⅱコリ8…2）、「惜しみなく与えた」（Ⅱコリ8…2）。「マケドニアの諸教会」は、むしろ、経済的には、「極度の貧しさ（Ⅱコリ8…2）」の中にあつた。ありました。

心貧しい「マケドニアの諸教会」。その行動の根本にあつたのは、「まず主に自分自身をささげた」。その信仰の姿勢です。これは、「与えること」が、神への霊的な献身である「ディアコニア」の心。その心が、実を結んだ形です。経済的にも、貧しい「マケドニアの諸教会」。彼らは、「苦しみの中にあつても、豊かな喜びにあふれ」、自ら進んで「募金」に参加しました（Ⅱコリ8…26）。これは、「主に自分自身をささげる」という、「霊的な献身」

から生まれた行為と言えます。

## キリストの模範

「主イエス・キリストは、富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられた（Ⅱコリ8…9）」。主イエスは、自ら進んで、ご自分を低くし、私たちに仕えられた。9節の、この言葉こそが、「ディアコニアの本質」を示しています。

「キリストは、豊かさを捨てて貧しくなられた」。それは単なる経済的なことではなく、神としての栄光を離れ、人間となつて十字架の死に至るまで仕えられた。それこそが、救いの御業です。

主イエスは、ご自分を低くし、私たちのために仕えられました。「あなたがたのために貧しくなられた（Ⅱコリ8…9）」。

「それは、主の貧しさによつて、あなたが豊かになるためだった（Ⅱコリ8…9）」。

「主イエスは、仕えられるためではなく、仕えるために来られた（マコ10…45）」。

だからこそ、イエス・キリストの体である教会もまた、主イエスに倣い「仕える共同体」「ディアコニア共同体」として、

歩むのです。

私たちは、今、その「主の恵み」に、生きる者です。それ故に、私たちは、「与える」こと。そこに、「喜び」を見出すことが赦される者とされるのです。

## ■おわりに―私たちの応答

私たちは、「与えること」において「神の恵み」を知り、「仕えること」において、キリストの姿に近づいていきます。そこに、「信仰に生きる喜び」を見出すことができます。その様に信じる者です。

私たち一人ひとりが「主に仕える」時、「ディアコニア」の心を、一人ひとり、心に固くする時、【ベテスタ奉仕女母の家】は命を帯び、生きたキリストの体となります。

【ベテスタ奉仕女母の家】は、「マケドニアの諸教会」が、そうであつたように、「心貧しき者たちの群れ」です。だからこそ、「心豊かな群れ」とされているのです。

# 保育園の多機能化

茂呂塾保育園園長

高梨 美紀

## 少子化の波

板橋区の人口は約60万人、その内、未就学児は約2万人です。板橋区認可保育園の欠員は778人。公私立合わせて118園中、約100園が定員を満たせず。5年前から総人口数は、ほぼ変わりないのに、4年前より未就学児数が、5千人減っています。地方や幼稚園で騒がれていた欠員問題は今や都心にも及んでいます。茂呂塾は幸い、様々な努力が功を奏し、欠員なく運営ができています。

私はバブルの終わりに就職し、長い間、待機児にあふれた保育業界で働いてきました。何もしなくても園児が集まり、何の心配もなく保育に邁進することができました。しかし保育だけに専念すればいい時代は終わり、私たちのしている保育をいかに多くの方に知ってもらい、自園を希望してもらうということが重要に

なっています。保育だけをしてきた私たちは、広報や営業活動のようなビジネス的な働きの経験がないので、多くの保育者は焦りを覚えているのが実状です。

## 未来の茂呂塾保育園

私が園長に就任した際、職員にアンケートをとりました。少子化を見据え、職員が茂呂塾の未来をどのように考えているのかを知りたかったからです。設問で「保育園の機能以外にどんなものがあったらよいと思いますか?」と問いました。それに対して職員の多くが「子ども食堂」「お惣菜販売」を挙げています。これは八十周年記念に発行した「もろじゅくごはん」があるように、食に強みを持つている園だからでしょう。三代目の大宮洋子園長は、茂呂塾のこの豊かな食を「保育園の財産」と言われていました。少子化で園運営が危ぶまれる時代において、この園の強みがあることは大きな力です。実は、このお惣菜販売を目指して準備を始めている段階で、思いがけずパンを販売するといういきさつがありました。保

育園にイタリアンブレッドを卸してくださっていたオーナーから一切の業務を終了すると、突然の連絡が入りました。私たちは困り、どこかパンを卸してくださるところがないか、探すことにしたのです。そんな矢先に私が幼馴染の接骨院に訪れると「みきちゃんの家のおそばおいしいパン屋さんがあるよね。ワインとチーズと二緒に食べると最高だよ」と言うのです。近所であるのに、全く知らないお店でした。早速、寄って、パンを買ってみました。店主が対応してくれたので、思い切って「こちらのパンを給食のために卸してもらうことはできますか?」と尋ねました。すると店主は販路拡大をちょうど考えていたと喜んで、この話に乗ってくれたのです。そこで早速、おやつ用にパンを届けてもらうことにし、サンドイッチにして試食すると職員みんなが「おいしい!」と言ったのです。小麦の味と香りのするおいしいパン。これは卸してもらうこと即決でした。

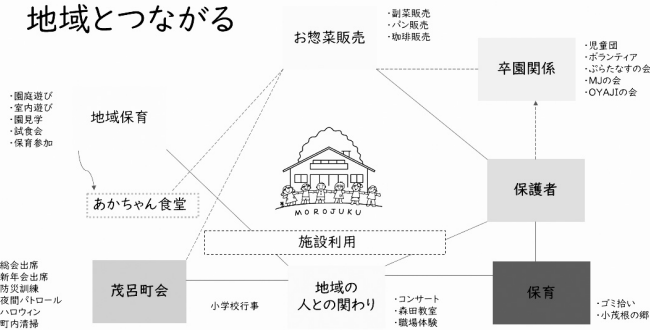
以降、私の自宅そばということもあり、度々パンを買いに寄っては店主とお



喋り。その折に店主がこんなことを言われたのです。「自分はパンしか焼けないけど、子どもたちのために何かできたら」と。その一言を聞いて、私の頭にひらめきました。そう、

このおいしいパンを保育園で売ろうと。茂呂塾のそばは、意外にもパン屋がなく、卸してくださるパン屋さんも歩いて行ける距離ではありません。このパンを降園時に買うことができればたら保護者は喜ばれるだろうと想像が出来ました。早速、職員に話し、さらには保護者にアンケートもとりました。すると賛同してくださる答えの中に、近隣の福祉園で焙煎する珈琲も売ってほしいという記述があったのです。さまざま福祉園に連絡し、珈琲販売も決めました。

## 地域とつながる



2023年9月のことです。この茂呂塾とパン屋さん、福祉園とのつながりには互恵性があり、思わぬ地域支援となりました。またこの販売が、その後の惣菜販売の練習にもなり、4か

月後には販売を始めたのです。

## 多機能化する保育園

このように、茂呂塾は地域とつながることとなりましたが、同時にこのおいしいごはんを活かして、地域の赤ちゃんを育てている方、妊娠中の方をお招きする赤ちゃん食堂も開始。アロマサロンを開く卒園生がママたちにハンドケアをする時間を設けるなど、嬉しい申し出もありました。

もう一つの試みが外部への施設貸出です。土曜日は園児の出席が少なく、保育室がほぼ空いているので、そこを利用して

もらう試みです。これまでにヨガ教室、フラワーアレンジメント、人形劇、コンサート、撮影会などが開かれています。この試みは、子育て世代以外の地域の方への園開放になりました。お惣菜とパン販売も在園、卒園生への販売から地域の方々への販売に挑戦。ご高齢の方で、どうしても携帯での申し込みができません、お宅に伺って一緒にしたこともあります。

私たちが目指すのは、子育てや生活の支援センターとなること。お隣にお住いの前町会長さんが、町会の総会で言われました。「この小茂根の地で育った子どもたちが、いつか大人になって離れても、また帰って来られる場所、知り合いのいる街にしたい」。その思いをともにしたいと思います。茂呂塾には子育てや家庭生活のノウハウを持つ職員が多数おり、その賜物を地域に還元していけることを願っています。

茂呂塾は、今年11月で90周年を迎えます。たくさんの方々大切にいただき、今があることを心から感謝して、地域に貢献していきたいと思っています。

2025年

## ベテスダの日のつどい

ベテスダ奉仕女母の家が、埼玉県加須

市の愛泉教会付属の診療所になる予定だった建物で、日本初の奉仕女<sup>ムッターハウス</sup>の母の家として発足してから、この5月で71年になりました。

初期は奉仕女の誕生日ごとに、祈りの友（奉仕女のかげに祈る10人）にお集まりいただいていたが、奉仕女が増えて母の家がこのために時間を使いすぎることに、発足2年後から、職業を持つている方も集まりやすい祝日にしてほしいとのことで、年1回、秋分の日に「ベテスダの日」を持つことになりました。第1回の会場は、銀座教会でした。

今年のベテスダの日は、かにた婦人の村で行われました。昨年の秋分の日<sup>予定</sup>でしたが、新棟の建設真っ只中でしたので、皆さまには2月の落成式にお集りいただき、ベテスダの日も9月にかにたで開催す

ることになりました。

ベテスダ奉仕女母の家の奉仕女は1970年には29人を数えましたが、2023年にシュヴェスター陽子（細井陽子姉）が亡くなり、今は5人になりました。

た。91〜99歳と高齢になられ、現在4人の姉妹は、大泉学園の母の家ではなく、東京と館山の高齢者ホームで生活しておられます。

この日出席されたのは、シュヴェスター道（天羽道子姉）とシュヴェスター都代（小川都代姉）のみ。シュヴェスター

道子（植木道子姉）も、3人で会うのを楽しみにしておられましたが、残念ながら欠席。祈りの友の方々も高齢になられ館山までは遠くて…と、東京、神奈川からおひとりずつ、かにたから2人と4人



のみの参加でした。そして、理事長、理事、監事、評議員、法人の4つの施設の職員、協力者など、合わせて39人の集まりとなりました。

プログラムは、村人がブロックを積んで建てた、かにた婦人の村・会堂での礼拝から始められました。大泉ベテル教会（1958年いずみ寮の礼拝から生まれた）にこの春就任された柳澤宗光牧師が「恵みに生きるディアコニア」と題して、ベテスダのディアコニアにふれながらお話しをしてくださいました。参会者の中には、礼拝後、会堂の

地下にある納骨室に下りて行かれて、村人と共に眠る深津牧師夫妻や奉仕女たち、関わりのあつた村人たちにご挨拶なさる方もありました。その後、新しく建てられた建物に移動して、ちらし寿司、煮物、茶わん蒸し、果物など、調理のスタッフ



が心を込めて用意した昼食をいただきながら、交わりのときを過ごしました。

食後、大沼昭彦理事長とかにた婦人の村の五十嵐逸美施設長の挨拶の後、シュヴェスター道とシュヴェスター都代にもご挨拶いただきました。

シュヴェスター道は、「ベテスタの日」の初期の歩みや近況を話され、シュ



ヴェスター都代も、「昔は茂呂塾保育園で働いていました。いずみ寮で働いたこともあります。かにたで働いたこともあります。」と、朝からのお疲れも見せずに話してくださり、お連れして良かったと、ほっとしました。

その後、法人の各施設（茂呂塾保育園、いずみ寮、かにた作業所エマオ）からの近況報告、各テーブル代表からのご挨拶があり、かにた婦人の村からは、夏の行事の動画を紹介しました。

かにた婦人の村でも、最近では若い利用者が増えています。新棟は個室化され、各々通学や仕事、b型作業所などに出か

け、個人的な生活が送れるようになりました。短くまとめられた動画には、そんな暮らしの中で行われた夜店の様子が映しだされています。

今年の夜店にも、スタッフによるたくさんのお店（しし焼肉も！）があり、みなさん焼きそばやソフトクリームなどを食べ歩き、エマオの小物店でハ

ンドタオルやワンピースなどを「カニ券」で買いました。毎年ボランティア

で来てくださるシンガーの網代さんやフラダンスの白戸さんの演奏を聴いて楽しい時間を過ごすのですが、フラダンスの踊り

の輪に、OMさんや農園や調理の職員たちが加わって踊りだすと、20歳のOSさんも加わって楽しそうに踊る姿が紹介

されました。生きづらさを抱えて2月に入所して半年、日中はアルバイトに出かけているOSさんの生き生きと踊る姿に、



自己表現するための機会を大切に用意し続けていきたいと、施設長が思いを語りました。

最後に村人たちがお客様へのお礼に、「やすらぎのいえ」と「てんのかみさま」

を歌い、ベテスタの集まりでは71年間必ず歌ってきたコーラル「主よわれらたつ」を

歌って散会になりました。その後、初めていらした方は、施設を見学されました。

### 「やすらぎのいえ」を歌う

私たちベテスタに連なる者のひとりとして、年に1度のベテスタの日は、ベテスタの精神の原点に立ち返り、思いを新たにする日です。

祈りの友の方々の参加が減ってきた今、これからのベテスタの日のあり方も変化していか

なくては、と思われた日でもありました。

（かにた婦人の村 塩川 成子）

施設だより

## 笑顔が咲いた、夏の終わりの日

いずみ寮 支援員 小幡勇治

いずみ寮では、利用者の皆さんが季節の移ろいを感じながら、皆と共に心豊かな時間を過ごせるよう、年間を通じてさまざまな施設行事を行っています。春のいちご狩り、夏の花火大会、秋のお芋掘り&焼き芋大会、冬のクリスマス会——自然に触れ、笑顔を交わし、思い出を紡ぐひとときが、日々の暮らしに彩りを添えています。

そんな中、九月上旬のいずみ寮では、夏の終わりを彩る恒例行事「いずみ寮花火大会」を行いました。

近年のいずみ寮では、若年の利

用者が増えたこともあり、今年により華やかで心ときめく非日常を利用者と共に過ごしたいという職員の思いから、メイク&ネイル、浴衣の着付け、浴衣姿の記念写真撮影、屋台風の特別夕食と、例年

にも増して充実した内容での実施となりました。

当日の昼食後、まずはメイク&ネイルからスタート。ソシオエステでお世話になっているプロの先生がメイクやネイルを施してくれました。会場にはアロマの香りがふんわりと漂い、やさしい音楽が流

れる中、皆さんは少し緊張しながらも次第に表情がほぐれていきました。

「こんなに丁寧なメイクしてもらったのは初めて」と、自然と笑顔がこぼれます。

ネイルは淡いピンクやラベンダー、ミントグリーンな



ど、浴衣に映える色が人気で、「爪がきれいになると、気分も上がるね」と嬉しそうに話される方もいました。メイクでは、ほんのりチークとリップを入れてもらい、照れながら鏡を覗く姿が印象

的でした。

メイクやネイルで気分が高まったところで、次は浴衣の着付けを行いました。いずみ寮では昨年までコロナの影響で各行事を縮小開催していたこともあり、花火大会で浴衣の着付けを行うのは実に6年ぶりとなります。生まれて初めて浴衣を着るという利用者も数名いて、「着てみたかった!」「どんな柄があるのかな?」と、皆さんわくわくした様子でした。

着付け経験のある職員を中心に皆で協力して、ひとりひとり丁寧に着付けを行いました。花柄、金魚柄、朝顔柄など、夏らしい柄を中心に数種類を用意し、「どれが似合うかな?」と選ぶ時間もまた楽しいひとときでした。

着付けが終わると、皆さん鏡の前でくると回ってみたり、「似合ってるかな」と照れながら聞いてくださったたり、職員が「とても素敵ですよ」と声をかけると、満面の笑みを返してくださる姿に、こちらも思わず笑顔になりました。

その後は、テラスで記念撮影会を実



施、手元には夏らしい柄の巾着やうちわを持ち、季節感を演出。カメラを向けると、皆さん少

し緊張した表情を見せながらも「はい、チーズ！」の声に合わせて、ぱっと笑顔が咲きま



した。浴衣姿で決めポーズをとる皆さんの姿は、まるで夏の絵巻のようでした。

「こんなにちゃんと写真撮ってもらったのは初めてかも」といった声もあり、この記念撮影のひとつきが、利用者さんにとつてただの記録ではなく、心に残る体験として記憶に残っていれば——そんな願いを込めて、シャッターを切りました。

撮影のあとは、夕食タイム。毎年恒例の花火大会の日は、特別に屋台風のメニューを提供しています。焼きそば、たこ焼き、フランクフルト、から揚げ、フライドポテトなど、夏祭りの定番がずらりと並び、食堂はまるで屋台のようになぎわいに。祭囃子のBGMも相まって「お祭

りみたいで楽しい！」と、利用者さんもうれしく笑顔で会話を弾ませていました。

しめるスタイルで行いました。職員も利用者の皆さんと一緒に手持ち花

火を楽しみました。線香花火をじっと見つめる方、バチパチと音を立てる花火に歓声を上げる方、それぞれが自分なりの夏の思い出を刻んでいるようでした。

噴出花火は、地面から勢いよく火花が吹き上がるタイプで、色とりどりの



そして夜7時、いよいよ花火大会がスタート。打ち上げ花火はなく、今回は手持ち花火と噴出花火を中心に、間近で楽

光が夜空を照らしました。「すごい！」「きれい！」と歓声が上がりが、浴衣姿で見守る皆さんの表情は、どれも輝いていました。

さらに、花火の最中には冷たいラムネとアイスクリームが彩りを添え、手にはシユワッと爽やかなラムネ、口にはひんやりとろけるアイスクリームと夏の夜にぴったりの贅沢なひとときに、皆さんの笑顔がいつそう輝いていました。

今回のイベントは笑顔と感動がいっぱいの一日になりました。「来年もまたやりたい！」「次は髪もセットしてみたいな」といった声もあり、職員一同、次回の企画に向けてやる気を新たにしています。

日常の中に、ちよつとした非日常を。そんな時間が、心を元気にしてくれるのだと、改めて感じた二日でした。

いずみ寮ではこれからも、笑顔が生まれる行事を大切にしていきたいと思っています。

ゆくよこ

シヴエスターから  
ひとこと

我が国に、ディアコニス(奉仕女)が誕生して71年。その71年を奉仕女のひとりとして歩んで来て、いつの間にか百歳に近づいていて、驚いています。

しかし今年に入り、まず3月に転倒して右肩を骨折し、その療養中に直腸に異常が発見されて、入院・手術。3月から5か月間も花の谷クリニックにお世話になり、8月4日に念願かなって帰村。塩川・天良両姉の全面的助力と、花の谷クリニックからの週2回の訪問看護を受けながら、村の一員として生活が許されていることに心から感謝しています。

そして、全世界の、生きとし生ける全ての命が大切にされることを願っています。

(天羽 道子)

シヴエスター道は、11月29日に99歳の誕生日を迎えられます。毎朝リハビリに励まれ、杖なしで歩かれています。

\*

最近、横になつて居る時間が多くなっていますが、体調を見ながらリハビリも継続。16

日の敬老会には、ピング大会に、しっかりと目を開けて参加しました。普段も食欲はありで、五目寿司を「美味しいです」と喜んでくださいました。

(桜庭 歌子 相浜ガーデンスタッフ記)

\*

衝撃の映像むなし終戦日

何故か一日違ふや秋の宵

秋風や「音の風景」ききながら

予報きき迷ふ秋空外出す

人知れず灯しつづけむ蛍草

(植木 道子)

\*

10月20日リーシヴガーデンに、シヴエス

ター知恵子を訪問。横になられていたが、起き上がって車椅子へ。今日は、杏仁豆腐の上に柿が乗っているスイーツをお持ちしました。フォークを上手に使って柿を召し上がり、杏仁豆腐は横田がスプーンでお口元へ。美味しい美味しいと召し上がりました。

「お忙しいところをありがとうございます!」いつも感謝の言葉をくださり、「また来ますね」と力強い握手をしていただきました。

(眞山 知恵子 横田記)

\*



11月23日のベテスタの日には、相浜ガーデンにお迎えに行き、礼拝から参加されました。

昼食後の交わりの時間には「昔、茂呂塾保育園で働いていました」とはつきりと挨拶され、お弁当も完食。お天気で良かったです。笑顔いっぱい半日を過ごされました。ホームでは、歩行器を使われています。

(小川 都代 塩川記)

## 寄付金

ありがとうございました

赤石とも子 縣洋一 赤山孝子 荒川恵美子 安東優 石塚久江・八重今井佳代 大沼昭彦 大浜幸子 加藤大 加納和寛 木田みな子 木下未果子 窪田美恵子 桑山善右衛門 小口晃生 後藤信子 近藤眞子 酒井忍坂本健 佐藤清光 佐野春奈 佐野雅子 柴田豊子 柴山操 鈴木淳司 鈴木節生 高木楯治 高木千賀子 高田由利美 田丸まり子 富室磨致子 中林典子 中山勝也 中山健介 西貝京子 貫井大輔 橋本治 原田冬樹 東経行 東島昌子 氷川英俊 平松秀一 深津恵太 深谷春男 福本和代 星野千恵子 細川敦子 堀越教子 松本清文 宮之原光枝 森田富美子 矢野輝子 山崎俊子 山本佳子 余郷志津子 横田碩子 吉井祐美子 渡辺さぬよ 渡邊礼子 NCC女性委員会 世界祈祷日事務所 明治学院東村山高等学校・中学校 日本基督教団牛込弘方教会 山ノ下恭二 茂呂塾保育園

(敬称略) 6月27日～10月8日

## おしらせ

### 計報

長い間、細井陽子姉の祈りの友として奉仕女の働きをお支え下さり、また、法人の理事、評議員として法人運営にお尽力いただきました橋本展子姉が、2025年8月6日に召天されました。

また、小川都代姉の祈りの友として、お支えいただきました浅尾節子姉が、2023年10月10日に召天されました。

生前のお交わりを心から感謝し、ご家族の方々に天父の深い慰めと平安をお祈りいたします。

### 日々の聖句2026年版

日々の聖句

LOSUNGEN  
2026

ドイツのヘレン・フット兄弟団の「ローズンゲン」の日本語版です。269版という長い歴史の上に築かれた「日々の聖句」は、籤引きで選ばれた聖句が日々のローズンク(合言葉)として与えられています。

現在50余か国語に翻訳・出版され、世

界中の人々を祈りてつないでいます。ご希望の方は、法人のホームページまたはお電話でお申し込みください。キリスト教書店でもお求めいただけます。

### 大泉ペテル教会に新しい牧師就任

4月より明星晃牧師に代わつて、柳澤宗光牧師が、就任されました。柳澤牧師は、6月より法人・ベテスタ奉仕女母の家の理事にも就任されました。



### 訂正

「働くまど」のページに掲載されていますシュヴェスター道子(植木道子姉)の俳句に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。失礼いたしました。

302号11頁

誤 冬の雷考えることも貧しくて

正 冬の雷考えること貧しくて

313号11頁

誤 新緑や溢ふるる生命注がれ

正 新緑や溢ふるる生命注がれぬ

かにた婦人の村・耐震整備改築建設  
決算報告

(単位:円)

収入の部	
補助金総額	764,095,000
厚労省・自治体	697,733,000
国土交通省	66,362,000
自己資金	244,362,000
借入金 *	180,000,000
寄付金	305,533,000
合 計	1,494,334,000
支出の部	
施設建築費用	1,257,000,000
解体工事費用	46,205,000
設計管理費用	26,000,000
備品・諸費用等	21,253,000
外構工事等	7,650,000
消費税	136,226,000
合 計	1,494,334,000
* 福祉医療機構	150,000,000
千葉銀行	30,000,000

かにた婦人の村・  
耐震整備改築建設報告

感謝と御礼

施設の老朽化並びに崖地隣接施設での危険性を回避し、ご高齢になられた方々の快適な住まいと、若い方々が利用しやすく、DV被害者の緊急避難施設としても利用できる施設の建て替え事業を、2017年度より開始しました。

資金的には極めて困難な状況でしたが、厚労省の補助金の他に、国土交通省の優良木造建築物への助成金も頂き、二度の「建替え資金寄付のお願い」と、

クラウドファンディングの呼びかけに依  
えて下さった皆様からの3億円を超え  
る寄付金により昨年11月末に竣工致し  
ました。

お陰様で、今年は、快適な生活環境  
の新しい施設で厳しい夏を乗り越える  
ことが出来ました。建替えをお支え下  
さった皆様に、心より御礼を申し上げ  
ます。

また建設資金の不足分は、福祉医療  
機構並びに千葉銀行からの融資を受け、  
早速始まるその返済にも皆様のご協力  
を頂きながら、かにた婦人の村の営みを  
前進させ、女性自立支援施設としての

責任を果たしてまいりたいと思います。  
今後も、お祈りとお支えをお願い申  
上げます。

(理事長 大沼 昭彦)

2025年11月15日発行(年3回)

発行人 大沼昭彦

編集人 村田英彦

〒178-0061

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスタ奉仕女母の家

電話 03-3924-2238

<https://www.bethesda-dmh.org/>

振替口座00190-2-138164